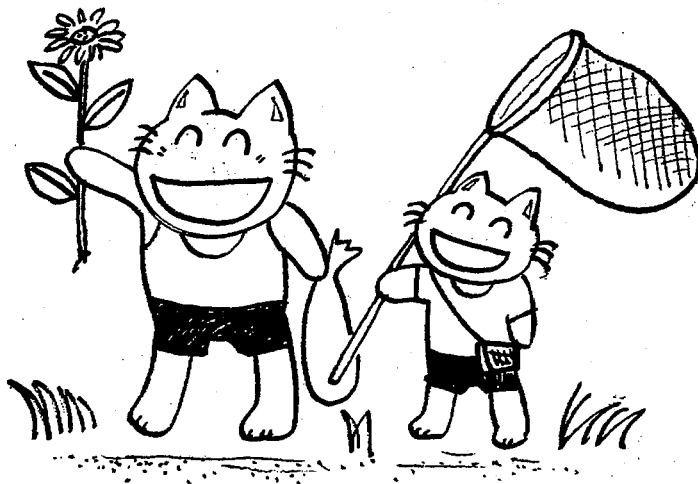


改訂版

# 標本のつくり方

植物押し葉標本編



市立市川自然博物館

はじめに

この冊子は、自然博物館で実際に調査や研究のために作成する動植物の標本の作り方の基本をご紹介しますものです。

きちんと作成され、記録を記載された標本は、地域の自然の記録として貴重な資料になります。

標本を作製するためには、採集してから、完成するまでに何日かの時間が必要です。

特に植物や海藻の押し葉標本や昆虫の標本は、きちんとした手順と処理、毎日の手入れを行って、ようやく完成します。

こうしてしっかりと作成された標本は、長期間の保存にも耐え、地域の自然の記録として活用することができます。

## 標本完成までの目安

植物押し葉標本 2週間から3週間



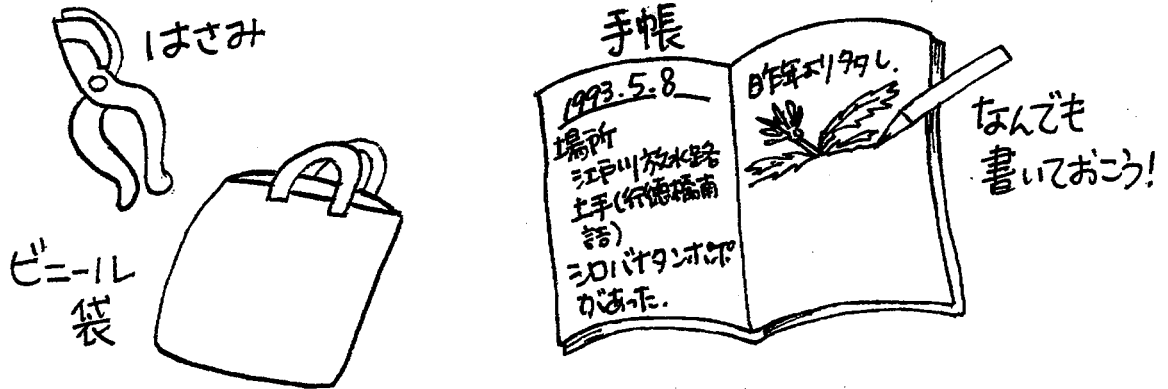
# 植物標本のつくり方



## 1. 採集

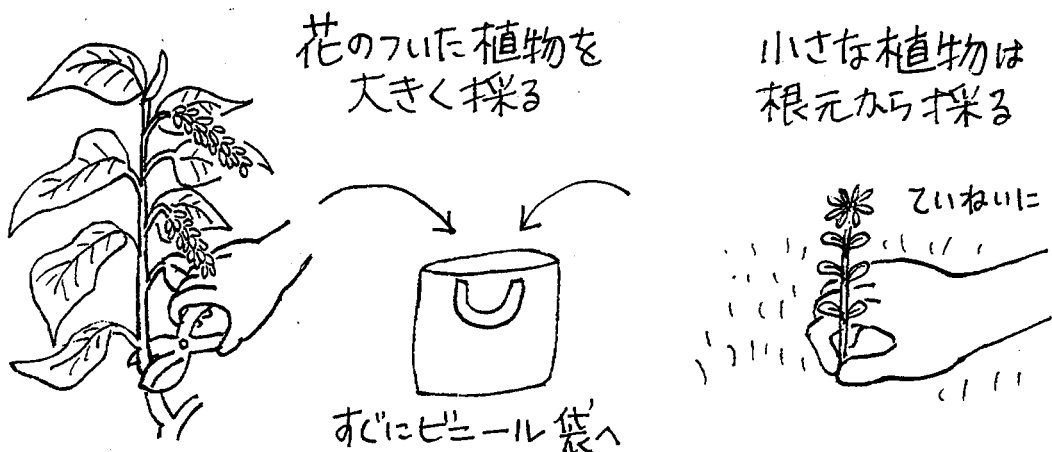
### ●必要な道具

- ・植物をとるためのはさみ（専用の剪定ばさみや、園芸用のはさみ）
- ・植物をいれる袋（厚手のビニール袋で、持ち手のついたもの使いやすい）
- ・気づいたことを記録する手帳



### ●採り方

- ・小さな葉っぱを一枚取っただけでは、その植物の全体の姿を知ることはできません。必ず、花や実のついたものを、葉っぱや茎も含めて、全体を大きく採りましょう。根を掘る必要はありません。
- ・植物は乾くとちぢれてしまうので、採ったあとはすぐにビニール袋に入れましょう。



### ●採る時の注意

- ・必要以上にたくさん採集しては、いけません。
- ・珍しい植物は、採らないで大事に保護しましょう。
- ・国立公園や国定公園、県や市町村の自然保護地域など、採集が禁じられている場所があるので注意しましょう。

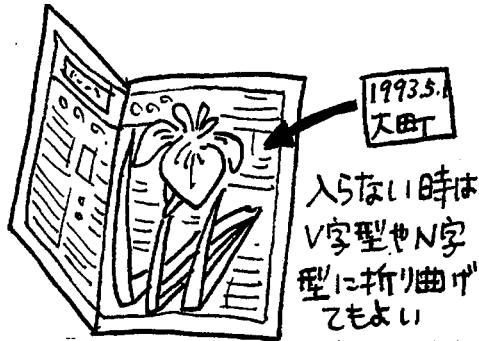
## 2. つくり方

### ●植物を新聞紙にはさむ

- ・用意するもの……採集した植物、古新聞（たくさん）、厚手の板2枚、重し（つけもの石やぶ厚い本）、マジックペン（油性）先のとがったもの（ピンセットや千枚通し）、はさみ、メモ用紙

#### ・手順

- ①. 植物の汚れを落とす。
- ②. 新聞紙1ページ分（見開きの半分）を半分にして、そこに植物を



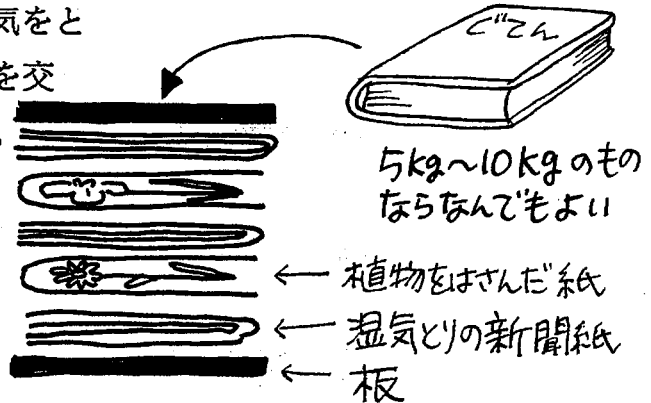
かたちよくはさむ。

- ③. 採集日や場所を書いたメモを、いっしょにいれる。

- ⑤. 板のうえに重しをおく。

- ④. 植物をはさんだ新聞紙と、湿気をとるための新聞紙（3～4枚）を交互に重ねて、厚い板ではさむ。

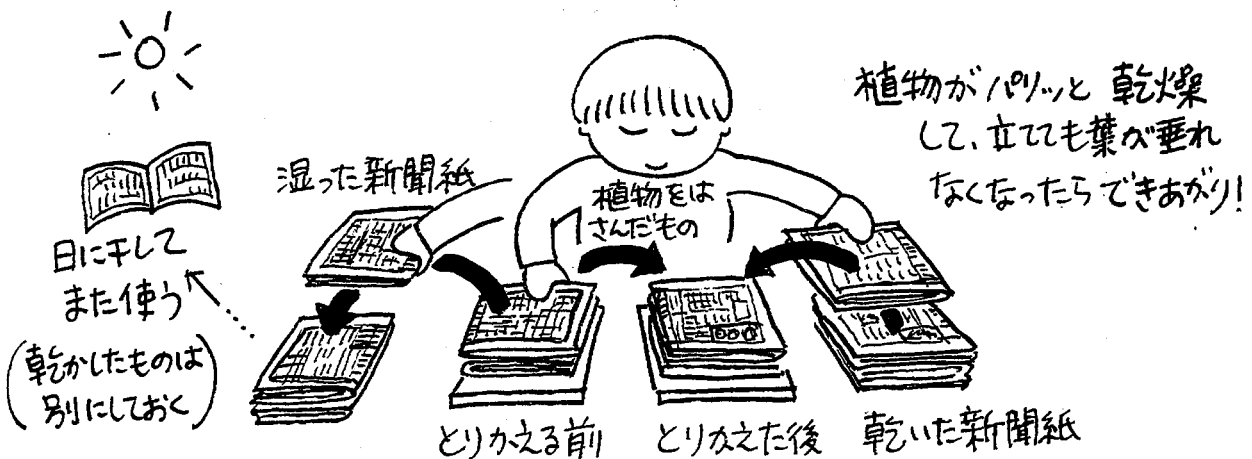
※ 板の大きさは、  
30×45cm くらい



### ●新聞紙をとりかえる

#### ・手順

- ①. 植物をはさんだ新聞紙はそのまま、最初の一週間は、湿気をとるための新聞紙を毎日とりかえる。植物をたまにのぞいて、形を整える（新聞紙に標本がくっついているときは、無理にはがさない）。
- ②. 次の1週間は、一日おきに、とりかえる。

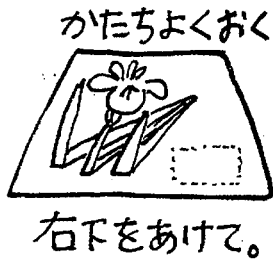


●乾燥した植物を台紙にはり、整理する

- ・用意するもの……台紙（厚い画用紙。大きさに特にきまりはないが、同じ大きさの紙で統一する）、のり、帯紙（薄い紙を細長く切ったもの）、重し（文鎮など）、ラベル（手製のもの）

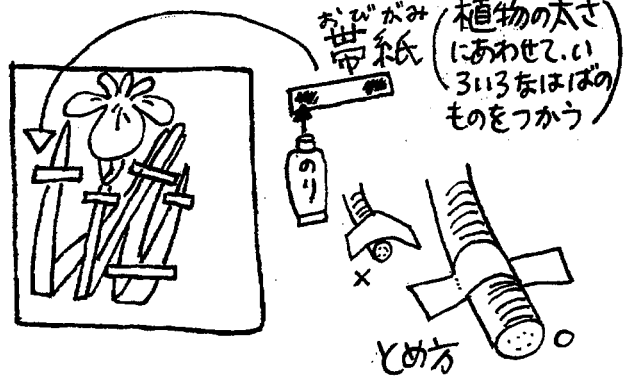
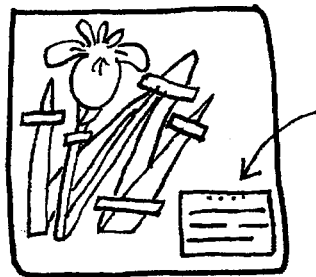
・手順

①. 台紙のうえに、乾燥した植物をおく。



- ②. 帯紙で、茎や葉の柄などをしっかり台紙にとめる。（植物を直接のりではらない）  
セロテープはあとではがれてくるのでダメ！
- ③. 帯紙でとめたところを、重しなどでおさえて、しっかりくっつける。

④. 台紙の右下に、ラベルをつける。



ラベルの例

植物標本	
種名	
採集地	採集日
採集者	
メモ	

とった場所

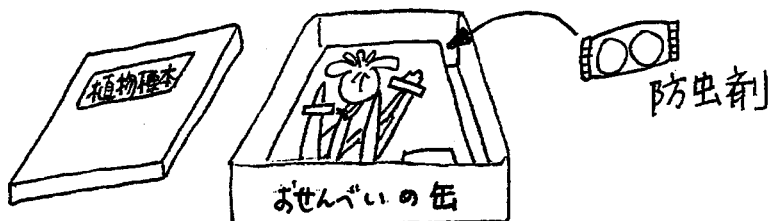
とった植物の名前 (図鑑などで調べてわかったら書く。わからなければあけておく)

とった日づけ (年月日)

とった人の名前

気づいたことなど

⑤. 防虫剤を入れた箱に入れ、しめらないように保存する。



自分で工夫してみよう!

改訂版 標本のつくり方

発行 平成6年6月17日

第3刷発行 平成14年7月7日

編集 市立市川自然博物館